



ロンドンパラリンピック、“ボッチャ”日本代表 秋元 妙美選手による特別授業！

～「地域福祉パワーアップカレッジねりま」学生による自主企画授業～

と き 2月5日(火)午前11時～午後3時(秋元選手の授業は、午後1時30分～3時)

ところ 練馬区役所本庁舎 20階 交流会場(練馬区豊玉北 6-12-1)

5日、練馬区役所で、ロンドンパラリンピック、ボッチャ競技に日本代表として出場した秋元妙美選手による特別授業が行われた。

今回の授業は、練馬区が「地域福祉を担う人材の育成」と「育成した人材を活かす仕組みづくり」を目標に開設した「地域福祉パワーアップカレッジねりま」5期生による自主企画授業として開催された。

午前の授業では、実際にボッチャの競技アシスタントとしてロンドンパラリンピックに参加した経験を持つ区職員が、ボッチャについての概要やロンドンパラリンピックでの経験を話した。

午後は、秋元選手による特別授業が行われた。秋元選手は、自身の障害のことや、競技をはじめたきっかけ、アスリートとしての苦労談などを披露した。その後、同会場にて、秋元選手の指導のもと、学生たちがボッチャを体験し、交流を深めた。

授業を受けた学生は、「ボッチャを初めて体験しました。分かりやすいルールですが、大変奥の深い競技であることが分かりました。パラリンピックを目指し努力した秋元選手は素晴らしいと思います」と感想を話してくれた。



授業の様子



ボッチャの指導をする
秋元選手

【“地域福祉パワーアップカレッジねりま”とは】

カレッジは、学ぶことそのものが目的ではなく、学んだ成果をもとに地域で活動することを目的としている。

平成19年に開設され、卒業生(4期生まで)は107名、現在は5期生22名、6期生40名が学んでいる。卒業後は、民生児童委員、青少年育成地区委員、認知症予防推進員、障害者スポーツ指導員など、地域福祉の担い手として活動している。

授業は、講義だけではなく、民間福祉施設・団体での実地調査を行うフィールドワークや、短期間の職業体験を行うインターンシップなども取り入れており、より実践的な力が身につくように行っている。また、講師陣が充実しており、学長(市川ルーテル学院大学学長)をはじめ福祉系の大学教授や、地域福祉活動の実践者が揃う。障害をテーマにした授業では障害当事者、民生・児童委員をテーマにした授業では現役の方から、直接、地域福祉活動の現状と課題の講義を受けられる。

【秋元妙美選手のプロフィール】※秋元選手のHPから引用

1978年、大田区生まれ。逆子でへその緒の絡み付きによる仮死出産で、脳性まひとなる。

日本社会事業大学社会福祉学部卒。大学3年の時、自分ができる競技スポーツとしてボッチャを始める。2005年より、調布市在住。2011年8月ボッチャワールドカップで、日本チーム初の銀メダル獲得。

【問い合わせ】

健康福祉事業本部 福祉部 経営課 ひと・まちづくり推進係(電話)03-5984-1503